

室町時代から戦国時代の

佐々木六角氏と観音寺城

宇多天皇を祖とする佐々木六角氏は、鎌倉から室町時代に近江守護を代々務めた氏族です。本拠地である蒲生野のあたりは古代豪族の佐々木山公（狭々城山君）の本拠でもあり、平安時代にこの地へ土着した宇多源氏の一族が佐々木山公と同化して佐々木氏となりましたと考えられています。この佐々木氏の嫡子である定綱は、兄弟とともに源頼朝が1180年に伊豆で挙兵したのに加わり、平家滅亡から鎌倉幕府の開始に貢献したことを認められて近江と長門・石見・隠岐の守護に任じられました。このとき以降、佐々木氏は近江守護職を独占します。



桑實寺山門（この右手に正覚院があったと伝えられています）

室町時代になると、各国の守護は幕府のある京都に常在して幕政に参画しました。佐々木氏の嫡流は京都の邸宅がある場所にちなんで六角氏と呼ばれ、また傍流ながら佐々木道誉は室町幕府の開始に貢献したことから深く幕政に関与することになった一族として、やはり邸宅の場所から京極氏と呼ばれました。京都に隣接する近江の守護を務めた六角氏は、室町幕府から常に牽制されました。守護職をめぐる家督争いを誘発され、そこへ幕府直臣の京極氏が争いに加わって六角氏の近江領国支配は安定しません。応仁の乱のもとで、六角高頼は京極持清と激しく争い、高頼は道誉以来130年ぶりに近江守護の座を持清に奪われました。持清の死後、京極氏は徐々に衰退していきしましたが、一方の高頼は將軍による六角征伐をしのぎ、守護代伊庭氏を追放して、戦国大名として南近江の領国支配を確立しました。

高頼を継いだ六角定頼は、京都へ入れなかった將軍足利義晴と義輝の後ろ盾となって中央政界へにらみをきかせます。六角氏にとっては最盛期といえるこの時期に、観音寺城の整備がすすめられたと考えられます。観音正寺のあるこの場所（安土町石寺）は、六角氏当主や重臣がしばしば布陣して戦に臨んだところで、ここに本格的な居城を整備したのです。

定頼の庇護を受けた將軍義晴は、城のある織山の中腹の桑實寺正覚院に3年ほど身を寄せています。多くの幕臣たちも集まったので、さながら京都に代わる幕府のようであったといえます。天文3年（1534年）の頃、義晴はここで婚礼をあげ、また土佐光茂に描かせた「桑實寺縁起絵巻」（重要文化財）を寺に奉納しています。中央政界と深くかかわった定頼でしたが、あとに続いた六角義賢・義治父子は戦国末期の激しい波にのまれてゆきます。

（滋賀県立安土城考古博物館学芸課長 伊庭功）

人口と世帯 令和元年9月1日現在
（）は前月比

総数 82,137人(+16)
男 40,363人(+5)
女 41,774人(+11)
世帯 33,851世帯(+31)

※外国人住民(41カ国・地域/1,498人)を含みます。

テレビ画面で広報紙
びわ湖放送にチャンネルを合わせ
リモコンのdボタンを押し!

マイ広報紙

マチイロ

YouTube

Facebook

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などで配布しているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

